

空き家を利用した 高齢者の居場所づくり

滋賀県豊郷町 石畑寿会

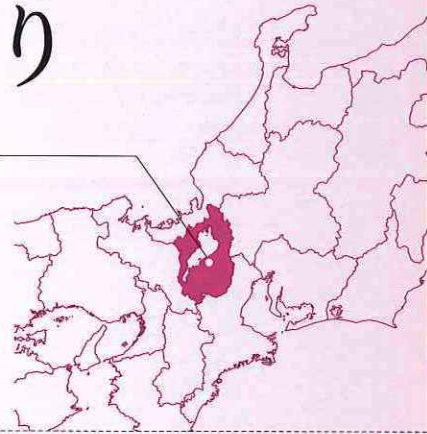
● 会員数 78名（男性32名、女性46名）

「あったかホーム おこうさん」 開設

地域のまちづくり委員会から、空き家を活用した高齢者の場づくりをしないかと誘いがあり、誰もが集う場を設けたいとの思いから、会員に声をかけました。9名の女性が賛同したことから石畑シルバーナインと名付け、責任者として男性1名も加わり10名で活動することになりました。

活動の拠点は「あったかホーム おこうさん」（以下「ホーム」という）。名前の由来は、この家に百歳まで一人で生活していたステキなおばあちゃん「おこうさん」です。県の「あつ

滋賀県
豊郷町



たかホーム事業」として町づくりの拠点となる場であり、運営は石畑シルバーナイン、管理はNPO法人まちづくり委員会が行っています。

私たちは空き家に残された家財道具の後かたづけから始めて1〜2週間、活動拠点として使えるように準備しました。そして平成26年3月、「ホーム」の開設セレモニーを行いました。県会議員はじめ町長や町会議員、近隣の方々50余名が列席され、立見が出る程でした。落語家の一席もあり、盛大に終えることが出来ました。

地域住民に向けた 活動展開

まず、地域の皆さんに「ホーム」を身近に感じていただきたいと、4月始めに「カロムで楽しもう」という行事を企画しました。土曜日のため子どもを含む大勢が参加され、まずまずの出足です。初めての人にはルール説明から始め、勝ち負けのゲームに年甲斐もなく童心に帰った楽しい一日でした。

桜の季節には、地域にある巨木桜の下でお花見です。会費制で料理は「ホーム」で準備、飲めやしゃべれやと時間のたつのも忘れて楽しみました。



「ホーム」の入り口



月に一度の食事会



黒豆づくり

また月1回位の食事会をすることになりました。まずカレーライスを作り、持ち寄りもあって賑やかな食卓に、昼間一人でいる高齢者に声をかけました。皆で食卓を囲むことが何よりのご馳走となりました。

「ホーム」には県立大学生3名が下宿されていて、学生にもおすそ分けしています。始めは小声の返事だった学生たちも、交流を重ねるうちに通じ合え、今ではまるで母親気分で接しています。

「食」だけではなく「身体を動かす」こと

も頑張っております。「ホーム」の敷地千坪程に黒豆や玉ねぎを植えました。草取りや土かけと大変ですが、その分収穫が楽しみです。

高齢者に向けた活動

当初は、「ホーム」に来るのを躊躇していた皆さんも、今では「遊びに来た」と気軽に来たり下さいます。一人暮らしの方は「大声で笑ったりするの久しぶり。『おこうさん』に来ると楽しいわー」。息子

子からは「おかんが『おこうさん』に行くようになってから、細かいことを言わへんようになつて家族円満」そんな話も聞こえます。

11月には認知症サポーター育成講座を開きました。地域包括支援センター職員と認知症

キャラバンメイトによる寸劇や話し合いが行われ、集まった26名の90%以上が理解できたと言われました。「ホーム」に立ち寄ることで、少しでも認知症予防の手伝いになればいいと思います。

高齢者の交流会は51名が参加しました。会費は200円、献立は皆で相談しながら、季節の材料や家にある野菜を取り入れ、また昔懐かしい品も考えながら決めました。大勢の食事づくりは大変でしたが、皆さんに喜んで戴きました。このような集いには、いつも懐かしい童謡や唱歌などを皆で大きな声で歌います。大声を出すことは、認知症防止にもいいらしいですね。

その後も、敷地にある木で干柿づくり、黒豆や玉ねぎの収穫など、忙しくも楽しい作業をおしゃべりしながら行っています。

活動を開始して、私たちは時にはぶつかり合いながら試行錯誤を重ね、いざとなると力が出るものだと感じています。地域みんなで、健康な老後を維持できるように頑張っていきたいと思います。

(副会長 西山順子)